



学びを糧に、新たな自分の道を

◆ 長野吉田高校の卒業式

ご卒業おめでとうございます。本校の3月は、卒業式をはじめとして毎年慌ただしく過ぎていきます。これは、いわゆる進学校と呼ばれる学校では全国どこでも同じ情景です。受験シーズンは終盤ですが、未だ道半ばの人がほとんどです。最後の最後まで粘り抜き、自分自身の最高学力で有終の美を飾ることを期待します。それでも今日は、晴れの卒業式です。あいにく、まん延防止等重点措置の延長が適用されている最中ですが、高等学校の卒業は人生の大きな区切りのひとつです。感染拡大防止のために昨年同様式典の縮小をお願いしましたが、皆さんの門出を在校生、教職員、関係者一同は心から祝福しています。

◆ 高校3年間で誇りにし、それぞれのネクストステージへ

高校3年間、教科学習、クラス・生徒会・諸行事の特別活動、打ち込んだ課外活動など、じつに様々な取り組みが皆さんの心と身体を育みました。かけがえのない友人も得ました。皆さんの中には、長引く新型コロナの影響に高校生活の大半を振り回され、自分が思い描く生活とはかけ離れた3年間を過ごした人もいるかもしれません。しかし、その都度対処してきた経験により、学習で得た多くの知識や思考力が知性や生きる力に変わり、計画性・柔軟性・対応力・実践力に磨きがかかりました。これら全てが皆さんの大きな財産や教養となり、皆さんの活躍や残した有形無形のカタチは、あらたに長野吉田高校の伝統へと加わります。誰もがその成長を誇り、今後の糧としてそれぞれの新たなステージへと旅立ちましょう。

◆ 世界の進路も見据え、若き主権者として歩んでほしい

この一年は皆さんが主権者として歩みはじめた年でもありました。選挙制度は平等の象徴であり、民主主義の根幹です。責任ある主権者として、自分事として真剣に考え、理想を見失わずに次へ生かすことを今後も心に留めてください。

世界では、ミャンマーの軍部によるクーデターから一年が経ち、何の罪もない市民が日々惨事に巻き込まれています。さらに先日は、ロシア軍がウクライナへの大規模侵攻に踏み切り、そこでも犠牲になっているのは無辜の民です。誰もが「戦争は良くない」と分かっているながら、戦争がなくなる日が来ないのは一体なぜなのでしょう。これはいささか究極の質問になってしまいましたが、今後皆さんが生きていく社会の事象は複雑多岐にわたり、程度の差こそあれ、このように白黒つけられないことを考える行為の連続です。これまで皆さんが学んだことが、入試や就職試験のためだけの勉強で終わるのではなく、自分自身や自分を取り巻く社会をよりよくするために必要な教養へと昇華することを切に望みます。また、そうして得た学力を自身の礎に、主権者として当事者意識を常に持ちながら、長野県や、日本、そして世界のよりよい進路作りに寄与することも願います。来たる4月からは民法が改正され、成年年齢の引き下げも始まり、今まで以上に判断力や責任が求められます。氾濫する情報を峻別し、考え抜き、バランス感覚を伴った最適な判断ができるように、今後も学びを継続してください。

◆ 臚と謝辞

下に載せた詩は、松下電器産業（現パナソニック）の創業者である松下幸之助氏の有名な詩です。コロナ流行から2年以上経過し、VUCA（ブーカ；Volatility：変動性、Uncertainty：不確実性、Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性）時代の到来は、きっと誰もが肌で感じられるようになっていきます。今回卒業生への臚（はなむけ）としてこの詩を選んだのは、どんな時代であっても誠実に、地に足をつけ、自分の信じる道を邁進し続けることこそが、やはり最も尊いことなのではないかと思ったからです。

皆さんの活躍を教職員一同心から祈っています。この進路室だよりも卒業号となりました。これまでお読みいただきありがとうございます。ありがとうございました。

道

松下幸之助

自分には自分に与えられた道がある。

天与の尊い道がある。

どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。

自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがいのないこの道。

広い時もある。

せまい時もある。

のぼりもあればくだりもある。

坦々とした時もある、かきわけかきわけ汗する時もある。

この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまる時もある。

なぐさめを求めたくなる時もある。

しかし、所詮はこの道しかないのではないか。

あきらめろと言うのではない。

いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、

ともかくもこの道を休まず歩むことである。

自分だけしか歩めない大事な道ではないか。

自分だけに与えられているかけがいのないこの道ではないか。

他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、

道はすこしもひらけない。

道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。

心を定め、懸命に歩まねばならぬ。

それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む

姿からは必ず新たな道がひらけてくる。

深い喜びも生まれてくる。